

## 悪に悪を報いる者たち

創世記三十四章

ヤコブの二人の子、デイナの兄弟シメオンとレビは、それぞ  
れ剣を取って難なく町に入り、男たちをすべて殺した。ハモ  
ルと息子のシエケムを剣にかけて殺し、……。 (25、26)

ヤコブの娘デイナは一人で土地の娘のところに出かけたため、男たちの欲情の餌食となり、陵辱されてしまいます。デイナの兄、シメオンとレビは非常に怒り、デイナとの結婚を願うシエケムの一族に対して、町の男たちが割礼を受けるという条件を提示し、その痛みで苦しんでいるところを襲って皆殺しにします。ヤコブの息子たちは復讐心に駆られ、悪には悪をもって報いたのです。叱責しようとした父ヤコブは息子たちの反論に遭い、何も言えなくなります。子どもたちを治めることの出来ない親の姿がここにあります。親たちの信仰の弛みは、子どもたちに対する霊的・道徳的感化力を弱めることにつながっていきます。子どもたちの不祥事に奔走する親たち。聖書の人物たちも例外ではありませんでした。子どもたちの健やかな成長のために、ただ神の憐れみと助けを祈るばかりです。